

介護福祉学科

■ 介護福祉学科 目次

人間と社会

人間の尊厳と自立	
人間の尊厳と自立	1
人間関係とコミュニケーション	
人間関係とコミュニケーション	2
社会の理解	
生活と福祉	3
社会保障制度A	4
社会保障制度B	5
人間と社会に関する科目	
心理学	6
社会学	7
介護福祉研究（手話研究）	8
文化活動入門・華道	9
文化活動入門・茶道	10
文化活動入門・書道	11

介護

介護の基本	
介護の基本Ⅰ	12
介護の基本Ⅱ	13
介護の基本Ⅲ	14
介護の基本Ⅳ	15
介護の基本Ⅴ	16
コミュニケーション技術	
コミュニケーション技術Ⅰ	17
コミュニケーション技術Ⅱ	18
生活支援技術	
生活支援技術A（家事支援）	19
生活支援技術B（家事支援）	20
生活支援技術C（基本介護技術）	21
生活支援技術D（基本介護技術）	22
生活支援技術E（症状別介護技術）	23
介護過程	
介護過程総論	24
介護過程展開Ⅰ	25
介護過程展開Ⅱ	26
介護過程展開Ⅲ（事例研究）	27
介護総合演習	
介護総合演習Ⅰ	28
介護総合演習Ⅱ	29
介護実習	
介護実習Ⅰ	30
介護実習Ⅱ	31

こころとからだのしくみ

発達と老化の理解

発達と老化の理解Ⅰ	32
発達と老化の理解Ⅱ	33

認知症の理解

認知症の理解Ⅰ	34
認知症の理解Ⅱ	35

障害の理解

障害の理解Ⅰ	36
障害の理解Ⅱ	37

こころのからだのしくみ

こころのしくみ	38
からだのしくみ	39
生活に関わるからだのしくみA	40
生活に関わるからだのしくみB	41

医療的ケア

医療的ケア	42
-------	----

特設科目

国家試験対策Ⅰ	43
国家試験対策Ⅱ	44
ボランティア活動	45

社会福祉主事任用資格コース

法学	46
経済学	47
児童福祉論	48
地域福祉論	49
社会福祉援助技術演習	50
福祉事務所運営論	51
社会福祉施設経営論	52
社会福祉現場実習指導Ⅰ	53
社会福祉現場実習指導Ⅱ	54
社会福祉現場実習Ⅰ	55
社会福祉現場実習Ⅱ	56

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	人間の尊厳と自立 講義・30 時間・2 単位	教員名	小渕 順子 他
概 要 及 び 目 的	人間の多面的理解、自立・自律した生活を支える必要性や、人間の尊厳を守ることの意義や、配慮すべきことを同じ人として理解することをねらいとする。 自立・自律像の多面的な理解を促し、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について、事例を取り上げ展開する。「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できる能力を養う。		
授業内容	1. 福祉とは 2. 「人間」の多面的理解 3. 尊厳をまもるとは①高齢者 4. 尊厳をまもるとは②障害者 5. 人権思想の潮流 6. 人権や尊厳に関する諸規定 7. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 8. 人権尊重と権利擁護 9. 自立とは 10. 介護における身体的な自立支援 11. 介護における精神的な自立支援 12. 介護における社会的な自立支援 13. 介護における尊厳保持の実践 14. 介護における自立支援の実践 15. まとめ・試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートを加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	人間関係とコミュニケーション 講義・30 時間・2 単位	教員名	鈴木 晶子・大道寺 正子 小渕 順子
概 要 及 び 目 的	・利用者主体の介護実践のために必要なコミュニケーション技術を身につけるため、自己理解や他者理解の重要性を講義・演習を通して学ぶ。 ・様々な心理療法的ケアについて体験的に学ぶ。		
授業内容	1. コミュニケーションとは 2. 自己理解の重要性 3. 価値観を尊重する 4. アサーション・アンガーマネジメント 5. 傾聴とは 6. 高齢者に対する心理療法的ケア 7. ユマニチュードについて 8. 回想法について 9. コラージュ療法について 10. 職員間のコミュニケーション（接遇） 11. 社会人のためのマナーとルール 12. 挨拶とコミュニケーションの基本 13. 社会人としての話し方、敬語の使い方 14. 電話対応、クレーム対応 15. まとめと試験		
評価方法	1. 試験 2. 演習へのとりくみ姿勢、出席点、レポートを加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活と福祉 講義・30 時間・2 単位	教員名	石川 静葉 太田 修平
概 要 及 び 目 的	個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、理解することをねらいとする。個人と家族、個人と社会の関係性を知り、「自助」「互助」「共助」「公助」について基本的な考え方を明らかにし、人として社会的存在であり続けることの意義を理解する。 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で捉える視点を養い、地域社会における生活とその支援について、介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策について基礎的な知識を身につける。		
授業内容	1. 生活の幅、生活の基本機能 2. ライフスタイルの変化、家族の機能と役割 3. 社会、組織の機能と役割 4. 地域・地域社会と生活支援 5. 地域福祉の発展 6. 地域共生社会 7. 地域包括ケア 8. 障害者保健福祉の動向 9. 障害者保健福祉に関連する法体系 10. 障害者総合支援制度 11. 個人の権利を守る制度・施策 12. 保健医療に関する制度・施策 13. 高齢者保健福祉の動向と関連する法体系 14. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度 15. 地域生活を支援する制度・施策		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポート提出を加味する		
テキスト	1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 2. 社会の理解 2. 必要に応じて資料を配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会保障制度 A 講義・15 時間・1 単位	教員名	大田 晋
概 要 及び 目 的	介護保険制度と障害者総合支援制度の創設の背景と目的さらにその内容を理解し、介護保険制度の見直しの背景、目的及び基本的視点についても理解することをねらいとする。 介護保険制度、障害者総合支援制度が、高齢者や障害のある人の生活の中で実際にどのように活用されているかについて理解する。 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎知識を習得する。		
授業内容	1. 介護保険制度が作られた背景～高齢社会と介護ニーズ 2. 介護保険制度の全体像（概要） 3. 介護サービスの種類と内容／介護サービス提供者（事業者と施設） 4. 介護サービスの利用～要介護認定、ケアマネジメント、利用者負担、支給限度額 5. 地域支援事業 6. 制度の基本的枠組み （1）～保険システム、介護保険事業（支援）計画、不服申立て 7. “ （2）～介護報酬と介護財源 8. その他～さまざまな審査会など、情報の公表、守秘義務、罰則 9. 期末試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポート提出、ノート作成状況などを加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会保障制度 B 講義・1 5 時間・1 単位	教員名	齋藤 真智子
概 要 及 び 目 的	社会保障の歴史、その動向を理解し、社会保障が自分自身の生活とどのように関連しているのかなどを介護実践に活用できる知識として学ぶことを目的としている。 介護福祉士として、生活を支えていくために理解しておかなければならない様々な観点から社会保障のしくみをおさえる。		
授業内容	1. 社会保障の基本的な考え方 2. 社会保障の現状、社会保障の制度の体系・機能・方法 3. 年金保険制度 4. 医療保険制度 5. 雇用保険制度 6. 労働者災害補償保険制度 7. その他の諸制度 8. まとめと試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点を加味する		
テキスト	1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 2. 配布資料		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	心理学 講義・30 時間・2 単位	教員名	鈴木 晶子
概 要 及 び 目 的	一般教養としての心理学として、人間はどういう精神的性質を持っているか、どういう精神的働きをするのかについて考え、そのような性質や働きはどのように発達するのか、また社会生活においてはどのように現れるのかについて学習し、人間の理解を深める。 心理学の基礎的知識を広く学ぶことにより、心理学的な視点を持って利用者をより深く理解し、適切な関わりができるようになることを目指す。		
授業内容	1. 知覚・認知 2. 欲求とフラストレーション 3. 自我防衛機制 4. 学習 5. 記憶 6. 発達 7. 発達理論 8. 対人認知 9. 集団, 権力と服従 10. 脳の不思議 11. ストレスとストレス関連疾患 12. 心理アセスメント 13. 心理検査 14. 心理療法 15. テスト		
評価方法	1. 試験（中間テスト・終講テスト） 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	齊藤勇編 図説心理学入門 誠信書房		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会学 講義・30 時間・2 単位	教員名	則武 勝之
概 要 及 び 目 的	本講では、特に、介護福祉士を目指す者としての必要な時事性に富んだテーマを中心に問答方式で授業を展開し、自分の意見を発表できる力を育てる。 個々人で課題研究に取り組み、その結果をまとめて発表し、さらに啓蒙活動にまで広げていく手だてを身につける。 介護対象者の社会構造や人間の社会的行動、さらには社会における家族や地域の機能・構造・役割についての基本的知識を習得する。		
授業内容	1. 社会学とは何か。 2. 生きることの意味。(人間の生き方) 3. 「家族」をありのままにみよう。 4. 「地域社会」の取り組みを考えよう。 5. 「社会心理」動かされない自分でありたい。 6. 「社会保障」とは人間保障である。 7. 「医療」と生命について考えよう。 8. 「労働」の喜びを生きがいになろう。 9. 「教育」は共有ですか。 10. 「環境問題」を直視しよう。 11. 「NPO 法人」への参加・設立はあなたの意志に証。 12. 「国際社会の一員」として世界に目を向けよう。 13. 課題研究（テーマの決定） 14. 課題研究（まとめ） 15. 課題研究（発表）		
評価方法	1. レポート 2. 授業参加度（出席） 3. その他		
テキスト	参考資料：「厚生労働白書」 その都度、関連資料を配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護福祉研究(手話研究) 講・演・30 時間・1 単位	教員名	大江 朝美・山根 淑子
概 要 及び 目 的	手話、聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する制度等についての理解と認識を深めるとともに、簡単な手話が理解でき、手話表現技術を習得する。全国手話検定 4・5 級の取得をめざす。		
授業内容	1. 講義) ①聴覚障害の基礎知識、②聴覚障害者の生活 2. ③手話の基礎知識 3. 実技) (手話表現の基礎) —— 伝えあってみましょう 4. (手話表現①) —— 名前を紹介しましょう 5. (手話表現②) —— 家族を紹介しましょう 6. (手話表現③) —— 数を使って話しましょう 7. (手話表現④) —— 趣味について話しましょう 8. (手話表現⑤) —— 仕事について話しましょう 9. (手話表現⑥) —— 住所を紹介しましょう 10. (手話表現⑦) —— 自己紹介をしましょう 11. (手話表現⑧) —— 1 日のことを話しましょう 12. (手話表現⑨) —— 1 ヶ月・1 年のことを話しましょう 13. (総合まとめ①) —— 実技のまとめ 14. (総合まとめ②) —— 介護場面での会話を学びましょう 15. 試験 (手話表現・読み取り・基礎知識)		
評価方法	1. レポート、提出物 2. 試験 3. 出席点を加味する		
テキスト	その都度、関連資料を配布 全国手話研修センター「手話を学ぼう手話で話そう」		
備 考			

年次・学期	1 年次・6 月～1 1 月	担当科	介護福祉学科
科 目 名	文化活動入門・華道 講・演・30 時間・1 単位	教員名	服部 真理子
概 要 及 び 目 的	日本独特の伝統的な文化としての生け花は、美しい花はもとより、花なき草木をも人の命と重ねて生命をいつくしみ生けて飾る生活の中に深く継承された美意識です。 一瓶のいけ花により、なごみ癒されることでしょう。介護福祉士としてゆとりある心や豊かな感性を生け花を通して学んで頂きたいと思います。命あるものへのやさしさもこの授業の中で会得してください。		
授業内容	オリエンテーションー授業の目的と内容・実技について 歴史と観賞について 初歩の生け花ー切り方、挿方、水揚げー楽しく花と向きあい挿す 自由花ー季節の変化、個性と構成 生花ー規矩性を学ぶ 技術を学ぶ 生花以外のものを使って（施設などで活用出来る） （コサージュ、ペットボトル、牛乳パックなどを利用して） 少し難しい作品にチャレンジする 学院祭の発表へ向けての準備 学院祭発表作品		
評価方法	絶対評価（優・良・可） 提出作品の評価・出席状況・受講態度		
テキスト			
備 考			

年次・学期	1 年次・6 月～1 1 月	担当科	介護福祉学科
科 目 名	文化活動入門・茶道 講・演・30 時間・1 単位	教員名	林 澄子
概 要 及 び 目 的	四季あります日本の文化の 1 つの茶道を通じて、少しでも礼儀作法や所作を学び、時代は変化しても現代に通じるおもてなしの心を学ぶ事を目的にしています。これから従事する信頼関係の職場に活用できる事が目標。		
授業内容	1. オリエンテーション（授業の目的と茶道の歴史等） 2～5. 緑茶の入れ方（玄米茶 ほうじ茶 煎茶等） 6～12. お抹茶 盆点前の稽古 風呂抹茶手前 13～15. お抹茶 ミニ模擬お茶会		
評価方法	1. 実技テスト 2. 出席状況・受講態度を加味する		
テキスト	配布資料・プリント		
備 考	懐紙 楊枝		

年次・学期	1 年次・6 月～1 1 月	担当科	介護福祉学科
科 目 名	文化活動入門・書道 講・演・30 時間・1 単位	教員名	寺谷 和子
概 要 及 び 目 的	日本の伝統文化である書に対する教養を深める。 実技実習を通して、書の基礎技能の習得を図り、あわせて文房四宝（筆・墨・硯・紙）について理解を深める。 生活の書に取り組み、日常の暮らしの中で、毛筆が活用できるようにする。 自分で作品を作る喜びを体験するとともに、集中力を高める。		
授業内容	1. オリエンテーション（実習の目的と内容、教材、教具等の説明） 文字の簡単な歴史 2. 自分の名前を楷書・行書で書く。 3. 古典の法帖をもとに、楷書の基礎を学ぶ。 4. 古典の法帖をもとに、行書の基礎を学ぶ。 5. 半紙に楷書・行書で作品を書く。 6. 漢字・かな混じり文を学ぶ。 7. 生活の書（小筆）を学ぶ。【楷書】【行書】 8. 熨斗袋に書く。 9. 色紙・半切に書く。課題選びと練習。 10. 色紙・半切に書く。 11. 色紙・半切作品の完成。 12. 消しゴムに印を彫り、色紙・半切に押印する。 13. 学院祭展示作品の計画。 14. 学院祭展示作品の練習。 15. 学院祭展示作品の出品。		
評価方法	1. 提出作品の評価 2. 出席状況 3. 受講態度		
テキスト	九成宮醴泉銘 唐 欧陽詢 中国法書選33 二玄社 神龍半印本蘭亭序 東晋 王羲之 中国法書選33 二玄社 配付資料・プリント		
備 考	学院祭に掛軸を出品する。		

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護の基本 I 講義・60 時間・4 単位	教員名	小渕 順子・藤田 哲輔 村上 真也 他
概 要 及 び 目 的	本科目は領域「介護」の基盤となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。 介護福祉の意義や役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションや ICF、介護の倫理などを通して理解する。さらに法の改正に伴う資格取得方法や医療的ケアの必要性について理解する。 介護福祉を取り巻く歴史や、法規を理解するとともに介護福祉士の社会的役割と理念が理解できるようになる。体験学習を通して高齢者、障害者施設の機能及び、多様な生活の実態を理解する。		
授業内容	1. オリエンテーション 2. 介護とは 3. 介護の成り立ち 4. 介護の概念の変遷 5～8. 介護福祉士とは ・介護福祉士を取り巻く状況 ・社会福祉士及び介護福祉士法 ・介護における専門職団体の活動 ・介護福祉士の倫理 9～11. 介護を必要とする人の理解（高齢者・障害者） 12～13. 感染症について（実習に向けて） 14. 実習ふり回り（高齢者施設の機能と生活の理解） 15. 中間試験 16. 実習ふり回り（障害者施設の機能と生活の理解） 17. 私たちの生活の理解 18. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし 19. その人らしさと生活ニーズの理解 20. 生活のしづらさの理解とその支援 21. 自立支援の考え方 22. ICFの考え方 23. 自立支援と介護予防 24～25. 自立支援とリハビリテーション 26～28. 高齢者のくらしと法律 29. 介護の基本的理解（まとめ） 30. 終講試験		
評価方法	1. 試験 2. レポート・提出物 3. 授業態度 出席状況		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 4 介護の基本 II		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護の基本Ⅱ 講義・30 時間・2 単位	教員名	小 淵 順子 則 武 勝之 他
概 要 及 び 目 的	本科目は領域「介護」の基盤となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。 リハビリテーションの理念方法を理解し、尊厳の保持、自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 地域包括ケアシステムの実現にむけて身近な地域に目を向けた体験学習を通して生活者の視点から住み慣れた地域で生活することの意義と介護の役割を理解する。		
授業内容	1. 地域包括ケアシステム 2. 住み慣れた地域で生活することへの支援 3～4. 地域福祉学習（アール・ケア見学） 5～8. 外出支援体験学習 9～11. 住み慣れた地域で生活することへの支援 12. ふれあいセンター、地域包括支援センター見学 13～14. 地域学習まとめ 15. まとめ テスト		
評価方法	1. 試験 2. レポート、提出物		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ 4 介護の基本Ⅱ		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護の基本Ⅲ 講義・30 時間・2 単位	教員名	小渕 順子 齋藤 真智子
概 要 及 び 目 的	本科目は領域「介護」の基盤となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。 ケアマネジメントの意味としくみ、介護過程の関係を理解し、多職種連携の実践により利用者の生活を持続させる視点を養う。 介護サービスと介護福祉士の働く場の特性を理解し、その中で介護福祉士の位置づけと役割を明確にすることで介護のあり方を考える。		
授業内容	1. 介護サービスの意味と特性 2. ケアマネジメントの意味としくみ 3. 介護サービスの種類と提供の場 4. 高齢者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性 5. 高齢者に対する入所系サービスの提供の場とその特性 6. 特定施設 7. 地域密着型施設 8. 障害者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性 9. 障害者に対する入所系サービスの提供の場とその特性 10. 11. 多職種連携 12. 13. 地域連携 14. まとめ 15. 終講試験		
評価方法	1. 試験 2. レポート・提出物 3. 授業態度		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 4 介護の基本Ⅱ 10 介護総合演習・介護実習		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護の基本Ⅳ 講義・30 時間・2 単位	教員名	齋藤 真智子・小渕 順子 森脇 美香
概 要 及 び 目 的	要介護者が増え続ける一方で、介護人材の不足がさげばれている今日、最先端技術を介護に活用する介護施設が増えている。 本科目では、支援型介護ロボット（HAL）や、コミュニケーション型介護ロボット等実際に触れ、その体験を通して現状の把握と課題を考え、効果的な活用法について理解する。 また、介護の多様性に対応していくため、ハンドマッサージの演習を通し、介護の幅を広げる。		
授業内容	1. オリエンテーション 2. 介護における最先端技術 3. 支援型介護ロボットHALを使用してみよう① 4. 〃 ② 5. コミュニケーション型介護ロボットについて知ろう 6. ハンドマッサージ① 7. 〃 ② 8. 自立支援型介護ロボットについて知ろう 9. 介護とIT・ICT 10. グループ発表に向けて 11. グループ発表準備① 12. 〃 ② 13. 〃 ③ 14. グループ発表① 15. 〃 ②		
評価方法	1. レポート・発表 2. 提出物 3. 授業態度 4. 出席状況		
テキスト	なし ※必要な場合は資料を配布する。		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護の基本 V 講義・30 時間・2 単位	教員名	小渕 順子・田中 いづみ 石川 静葉 他
概 要 及 び 目 的	本科目は領域「介護」の基盤となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。 介護現場における安全の確保とリスクマネジメント、事故防止、安全対策について方法を知るとともに、実際に調べたりすることで理解を深める。 感染対策・事故防止対策など介護の現場でのリスクを知り、具体的な対策方法について考えることができ、グループワークを通じて介護職として自らの考えを発表することができる。 介護福祉士として、チームの一員として働くにあたり、介護予防、終末期の介護についても理解を深める。さらに2年間の総まとめとして自己の介護観をまとめる。		
授業内容	1～3. 自立支援と介護予防 4. 介護における安全の確保とリスクマネジメント 5. 介護における安全の確保 6. リスクマネジメントとは何か 7. 感染症対策 8. 感染管理のための方策 9. 介護従事者の安全① 健康管理の意義と目的 10. 介護従事者の安全② こころの健康管理 ストレスとアンガーマネジメント 11. 介護従事者の安全③ 身体健康管理 12. 介護従事者の安全④ 労働環境の整備 13. 終末期の介護 介護福祉士と終末期ケア・死にゆく人々を支える介護福祉士 14. 介護観について 15. まとめ テスト		
評価方法	1. 試験 2. レポート・提出物 3. 出席状況		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 4 介護の基本 II 7 生活支援技術 II		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	コミュニケーション技術 I 講・演・30 時間・2 単位	教員名	小 淵 順子 寺 谷 和子
概 要 及 び 目 的	介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割などを理解し、状況・状態に応じたコミュニケーション技法を学習する。 介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーション技術の習得、コミュニケーション障害のある利用者を理解し、適切なコミュニケーションの実践が可能となることをねらいとする。さらに、文書作成の基本を学び文章発信に関する知識と技術、目的に応じた適切な表現ができる力を養い、文章によるコミュニケーション力の向上を図る。		
授業内容	1. 介護におけるコミュニケーションの基本 2. コミュニケーションの基本技術① 傾聴・受容・共感（演習含む） 3. コミュニケーションの基本技術② 言語・非言語・準言語（演習含む） 4. コミュニケーションの基本技術③ 目的別・集団（演習含む） 5. 家族とのコミュニケーション 6. 文書作成の基本（受信者名と敬称、封筒の書き方） 7. 文書作成(1)（文書の構成と配置・頭語と結語） 8. 文書作成(2)（前文・主文・末文の書き方） 9. 文書作成(3)（お礼状文書の表現方法） 10. 文書作成まとめ（お礼状作成から投函まで） 11. チームのコミュニケーション 報告・連絡・相談 12. 介護における記録① 意義・目的・記録の種類 13. 介護における記録② 記録の実際 14. 会議の種類と運用 15. まとめ・試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点・レポート提出・受講態度を加味する 3. 提出物		
テキスト	1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 2. 資料		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	コミュニケーション技術Ⅱ 講・演・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ・柴田 富夫 佐藤 聡子
概 要 及 び 目 的	介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーション技術の習得をするとともに、障害のある利用者を理解し、適切なコミュニケーションの実践が可能となることをねらいとする。 聴覚障害、視覚障害等様になる障害をもつ人を理解するとともに、要約筆記、点字の基本的なコミュニケーション手段を習得し、社会や職場で役立てることができるようになる。		
授業内容	1. コミュニケーション障害への対応の基本 2. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 3. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践① (視覚障害、聴覚障害、構音障害、失語症) 4. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践② (認知症、うつ病・抑うつ状態、統合失調症) 5. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践③ (知的障害、発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害) 6. 視覚に障害のある人とのコミュニケーションの意義と目的・基本 7. 点字の概要、点字の打ち方、 8. 点字 (濁音・半濁音等) 9. 点字問題集基礎編① 10. 点字問題集基礎編②課題レポート (点字用紙2ページ分) 11. 中途失聴・難聴のある人の現状と課題 12. 要約筆記の基礎知識 13. 日本語の基礎知識 14. 話しことばの基礎知識 15. ノートテイク技術の習得		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートを加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 点字：「初めての点字」全国視覚障害者情報提供施設協会 要約筆記：テキストは使用せず、都度レジュメを準備し配ります。		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活支援技術 A (家事支援) 講・演・30 時間・2 単位	教員名	溝口 佳代・小渕 順子
概 要 及 び 目 的	生活支援・居住環境整備・被服生活・食生活の基本的知識の学習を行う。 生活支援の基本的な考え方をもとに、介護を必要とする人の自立・自律を尊重し、見守ることも含めた適切な家事支援技術を身に付ける。潜在能力を引き出し、安全に援助できる技術や知識について習得することをねらいとする。		
授業内容	- 生活支援① 生活とは・生活支援とは - 生活支援② ライフサイクル・生活支援のポイント - 生活支援③ 生活支援と介護過程・チームアプローチ - 居住環境の整備① 住まい・生活空間 - 居住環境の整備② 快適・安全な生活環境 - 居住環境の整備③ 高齢者・障害者の住まい多職種連携 - 福祉用具① 福祉用具とは・福祉用具の種類 - 福祉用具② 適切な福祉用具を選ぶための視点 - 高齢者の生活の特徴と課題。生活設計の考え方・家庭経済活動 - 被服生活の基礎知識 - 高齢者・障害者の被服生活 - 食生活の基礎知識① 食生活の変化・施策 - 食生活の基礎知識② 五大栄養素・献立の立て方 - 食生活の基礎知識③ 食品衛生・調理の基本 - まとめ・試験		
評価方法	1. 出席点・筆記試験		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活支援技術 B (家事支援) 講・演・60 時間・4 単位	教員名	溝口 佳代
概 要 及 び 目 的	介護を必要とする人がどのような状態であっても、自立・自律を尊重し、見守ることも含めた適切な家事支援を行うことができる技術を身に付けるとともに、安全に援助できる技術や知識を習得することをねらいとする。 生活支援技術 A で習得した知識を活かし、1 人ひとりの家事支援技術力の習得、向上を目指す。		
授業内容	1・2 家事支援の意義と目的 家事支援の視点 1 実習室準備・調理の基本 3・4 家事の介助の技法 家計管理 1 家事支援の視点 2 家事の介助の技法 調理 1 5・6 家事の介助の技法 家計管理 2 調理 2 7・8 家事の介助の技法 調理 3 9・10 家事の介助の技法 調理 4 11・12 家事の介助の技法 調理 5 13・14 家事の介助の技法 調理 6 15・16 家事の介助の技法 調理 7 17・18 家事の介助の技法 調理 8 19・20 家事の介助の技法 洗濯・管理 家事支援の視点 3 21・22 家事の介助の技法 裁縫 1 23・24 家事の介助の技法 裁縫 2 清掃・片付け 25・26 家事の介助の技法 室内環境 27 まとめと筆記テスト 28・29・30 総合演習 買い物 調理 家計管理		
評価方法	1. 出席点・筆記及び実技試験		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I		
備 考			

年次・学期	1年次・通年	担当科	介護福祉学科
科目名	生活支援技術 C(基本介護技術) 講・演・120 時間・8 単位	教員名	小淵順子他
概要 及び 目的	高齢者福祉施設等で介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護現場での経験を生かして、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。 介護の原則である「自立（自律）支援」「尊厳の保持」「安全・安心」を土台とし、対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 ICF の概念に基づくアセスメントを行い、さまざまな対象者に適切な生活支援が展開できることを目指す。		
授業内容	1～ 2. オリエンテーション、基本となる技術とは 3. ICF の視点とアセスメント 4～15. 自立に向けた「移動の介護」 - 自立した移動とは - 状態に応じた移動、移乗の介護 内容 体位変換、安楽な姿勢・体位、車いす介助、歩行の介助 等 - 多職種との連携 16～22. 自立に向けた「身じたくの介護」 - 自立した身じたくとは - 状態に応じた身じたくの介護 内容 整容、口腔ケア、衣類の着脱 等 - 多職種との連携 23～26. 自立に向けた「食事の介護」 - 食事の意義と目的 - 状態に応じた食事の介護 - 多職種との連携 27～35. 自立に向けた「入浴・清潔保持の介護」 - 自立した入浴・清潔保持とは - 状態に応じた入浴・清潔保持の介護 内容 入浴、部分浴、清拭、洗髪 等 - 多職種との連携 36～46. 自立に向けた「排泄の介護」 - 自立し排泄とは - 状態に応じた排泄の介護 内容 トイレ、ポータブルトイレ、尿器便器、おむつ、おむつ体験 等 - 多職種との連携 47～57. 自立に向けた「休息・安眠の介護」 - 休息、睡眠とは - 状態に応じた休息、睡眠の介護 内容 ベッドメイキング、電法 等 - 多職種との連携 58～60. 「人生の最終段階における介護」 - 意義と介護の役割 - 人生の最終段階の介護 - 多職種との連携		
評価方法	1. 出席点 2. 演習態度（みだしなみ、忘れ物の有無、意欲 等） 3. 筆記試験 4. 実技試験		
テキスト	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ		
備考	授業形態は、講義と演習ですすめていきます。（※介護実習の時期に応じて、項目が入れ替わる） 演習時は、実習服・実習靴が必要です。		

年次・学期	2年次・通年	担当科	介護福祉学科
科目名	生活支援技術 D(基本介護技術) 講・演・60 時間・4 単位	教員名	小湊順子他
概 要 及 び 目 的	高齢者福祉施設等で介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護現場での経験を生かして、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。 生活の継続性を支援する観点から、生活支援技術 C(基本介護技術)の知識・技術を土台に、対象者の個々の状況に応じた支援が実践できるための個別援助技術を習得する。 また、社会生活の維持拡大に向け、ご利用者の楽しみ、役割、生きがいにつながる視点を養い、さらに、緊急時や災害時における生活支援技術が実践できることを目指す。		
授業内容	1～ 6. 社会生活の維持拡大に向けた援助① 福祉レクリエーション 7～10. 社会生活の維持拡大に向けた援助② 唱歌 11～12. 社会生活の維持拡大に向けた援助③ 化粧療法 13～14. 社会生活の維持拡大に向けた援助④ 災害時の対応 15～16. 緊急時対応の知識と技術 17～28. アセスメントに基づいた個別援助技術 介護過程の実践的展開 29～30. まとめ		
評価方法	1. 出席点 2. 演習態度(みだしなみ、忘れ物の有無、意欲 等) 3. 筆記試験 4. 実技試験		
テキスト	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II		
備 考	授業形態は、講義と演習ですすめていきます。(※介護実習の時期に応じて、項目が入れ替わる) 演習時は、実習服・実習靴が必要です。		

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活支援技術 E (症状別介護技術) 講・演・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ
概 要 及 び 目 的	「こころとからだのしくみ」「障害の理解」で学んだ知識を応用して、利用者の状態・状況に応じた適切な生活支援技術を習得する。 人体の構造や機能の学びを踏まえて、症状別介護技術の習得を内容とする。 利用者がどのような状態であっても、自立支援にむけての生活支援技術が提供できる統合的能力を養う。		
授業内容	1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは 2. 肢体不自由に応じた介護 3. 視覚・聴覚障害に応じた介護 4. 言語・重複障害（盲ろう）に応じた介護 5. 内部障害に応じた介護 ①心臓・呼吸機能障害に応じた介護 6. 内部障害に応じた介護 ②腎臓機能障害に応じた介護 7. 内部障害に応じた介護 ③膀胱・直腸・小腸機能障害に応じた介護 8. 内部障害に応じた介護 ④肝臓・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害に応じた介護 9. 重症心身障害に応じた介護 10. 知的障害に応じた介護 11. 発達障害に応じた介護 12. 精神障害に応じた介護 13. 高次脳機能障害に応じた介護 14. 難病に応じた介護 ①筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病に応じた介護 15. 難病に応じた介護 ②悪性関節リウマチ、筋ジストロフィーに応じた介護		
評価方法	1. 筆記及び実技演習 2. レポート点を加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護過程総論 講義・30 時間・2 単位	教員名	小 淵 順子 上 田 千恵
概 要 及 び 目 的	他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 I C F の概念を取り入れた専門的知識・技術をもって行われる、利用者を主体とする生活支援活動の展開方法を習得する。 介護過程を学び、自立支援に沿ったサービスを統合的・計画的に提供できる思考過程を身につける。		
授業内容	1. 介護過程とは 2. 介護過程の意義・目的 3～5. 介護過程の基本視点 介護過程の全体像の理解 6. 介護過程の展開① アセスメント 7. 介護過程の展開② 介護計画の立案 8. 介護過程の展開③ 介護の実施 9. 介護過程の展開④ 評価 10～14. 介護におけるプレゼンテーションの必要性（コンピューター入門） 15. まとめ テスト		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点、レポート（提出物）も加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程 コンピューター：「30時間アカデミック情報リテラシーoffice2019」		
備 考			

年次・学期	1 年次・ 後期	担当科	介護福祉学科
科目名	介護過程展開 I 講・演・30 時間・ 2 単位	教員名	小淵 順子 他
概 要 及 び 目 的	高齢者施設等で介護福祉士として実務経験を有する教育および病院や高齢者施設で保健師として実務経験を有する教員が、介護現場での経験または臨床現場での経験を生かして、介護を必要とする人に対して一連の介護過程が展開できるよう実践的に指導する科目である。 ・他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 ・介護過程におけるアセスメントの必要性を理解し、「必要な支援とその理由」を明確にする。 ・事例学習を繰り返し、実習Ⅱ－1 にむけて実践的能力を養う。		
授業内容	1. 介護過程の実践的展開 事例で学ぶ介護過程の展開について 2. アセスメントとは 3-6. 情報の収集 7-8. 情報の解釈・関連づけ・統合化 9-10. 課題の明確化 11. ケアマネジメントと介護過程の関係性 12-14. アセスメントの実施 演習 15. まとめ・試験		
評価方法	1.筆記試験 2.出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程		
備 考			

年次・学期	2 年次・ 前期	担当科	介護福祉学科
科目名	介護過程展開Ⅱ 演習・30 時間・ 1 単位	教員名	小淵 順子
概 要 及 び 目 的	高齢者施設等で介護福祉士として実務経験を有する教育および病院や高齢者施設で保健師として実務経験を有する教員が、介護現場での経験または臨床現場での経験を生かして、介護を必要とする人に対して一連の介護過程が展開できるよう実践的に指導する科目である。 他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 利用者のさまざまな生活の中から、個別の生活課題や潜在能力を引き出すための介護過程の展開について学ぶ。 利用者のさまざまな状況に応じた介護過程の展開方法について習得し、介護実習Ⅱ－1を通してアセスメント能力を主とした実践力を身につけ、実習Ⅱ－2につなげていく。		
授業内容	1. 実習Ⅱ－1にむけての介護過程の展開 2-6. 事例学習によるアセスメントの実践 7. 実習Ⅱ－1 担当利用者の振り返り 8. 介護計画の立案 9～13. 模擬カンファレンス 14. 実習Ⅱ－2にむけての介護過程 15. まとめ・試験ト		
評価方法	1.筆記試験 2.出席点、レポート(提出物)も加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程		
備 考			

年次・学期	2 年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	介護過程展開Ⅲ(事例研究) 演習・60 時間・ 2 単位	教員名	小淵順子他
概 要 及 び 目 的	高齢者施設等で介護福祉士として実務経験を有する教育および病院や高齢者施設で保健師として実務経験を有する教員が、介護現場での経験または臨床現場での経験を生かして、介護を必要とする人に対して一連の介護過程が展開できるように実践的に指導する科目である。 他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 介護実習の体験に基づくケース研究を行い、介護過程の展開を総合的に学ぶ。 介護実習Ⅱ－2 で担当した利用者を通して自立支援に向けて、総合的・計画的なサービスを提供できる能力を身につける。		
授業内容	1. 介護計画の立案 2. 介護の実施 3. 評価 4. 介護過程とケアマネジメント① 介護過程とケアマネジメントの関係性 5. 介護過程とケアマネジメント② チームアプローチにおける介護福祉士の役割 6～8. 実習Ⅱ－2 にむけて 9～10. 実習のふり振り返り 11. 事例研究の意義と目的、進め方 12～21.. 事例研究の作成、個人指導 22～23.. 事例研究発表(クラス発表) 24～27.. 事例研究発表会 28～29. 施設のケアプランと介護過程 30. まとめ		
評価方法	1.事例研究 2.出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護総合演習 I 演習・60 時間・2 単位	教員名	介護福祉学科教員 他
概 要 及び 目 的	・一年次の介護実習にむけて、実習の心構え・予備知識・動機づけ等の準備を行い実習の展開方法について理解する。 ・書類作成等実習にむけた一連の準備を行う。 ・他教科との連携を図りながら、事前学習を深める。 ・実習後の振り返りを通して、さまざまな暮らしと利用者ニーズを理解する。		
授業内容	1. オリエンテーション 実習とは 実習 I・II について 2. 実習 I－1（高齢者施設） 意義・目的 3～8. 実習 I－1 の準備 実習ファイル作成 実習施設への各種書類作成 目標レポート 実習日誌の書き方 事前訪問指導 実習に必要な技術指導 実習直前オリエンテーション ※必要に応じて他教科の指導 9～11. 実習の振り返り 発表 実習評価 12. 日誌のふり返し 13. 実習 I－2（障害者施設） 意義・目的 14～16. 実習 I－2 の準備 実習ファイル作成 実習施設への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 障害者施設より特別授業 実習直前オリエンテーション 17～19. 実習の振り返り 発表 実習評価 20～23. 外出支援体験学習 24. 実習 I－3，4（通所・訪問） 意義・目的 25～27. 実習 I－3，4 準備 実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 通所・訪問事業所より特別授業 実習直前オリエンテーション 28、29 実習の振り返り 発表 実習評価 30. まとめ		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 ・実習のしおり ・関係書類配付		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護総合演習Ⅱ 演習・60 時間・2 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及び 目 的	・二年次の介護実習にむけて、実習の心構え・予備知識・動機づけ等の準備を行い介護実習Ⅱの意義・目的について理解する。 ・書類作成等実習にむけた一連の準備を行う。 ・他教科との連携を図りながら、事前および事後の学習を深め総合的な理解力を養う。 ・実習後の振り返りを通して、介護過程における利用者の生活とニーズを理解する。		
授業内容	1. オリエンテーション 実習Ⅱについて 2. 実習Ⅱ－1（高齢者施設）意義・目的 3～9. 実習Ⅱ－1 の準備 実習ファイル作成 実習施設への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 実習に必要な技術 実習直前オリエンテーション ※必要に応じて他教科の指導 10～14. 実習の振り返り 発表 実習評価 15. 実習Ⅱ－2（高齢者施設） 意義・目的 16～22. 実習Ⅱ－2 の準備 実習ファイル作成 実習施設への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 実習に必要な技術 実習直前オリエンテーション 23～29. 実習の振り返り 発表 実習評価 30. まとめ		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 ・実習のしおり ・関係書類配付		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護実習 I 実習・トータル 150 時間・3 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	介護実習 I：利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心としこれに併せて利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。 高齢者・障害者…利用者との人間的ふれあいを通じて利用者の日常生活を知り、必要とされる基本的介護を学ぶ。 通所介護…利用者との人間的ふれあいを通じて利用者の日常生活を知り、必要とされる基本的介護を学ぶ。 訪問介護…利用者の日常生活には、様々な暮らし方や住まいなどがあることについて知る。		
授業内容	高齢者・障害者 1. 施設の種別・機能・役割を知る。 2. 施設の日課を理解する。 3. 利用者及び施設職員との関わりの中でコミュニケーションの重要性を知る。 4. 観察の視点を養い、必要とされる援助について学ぶ。 通所介護 1. 通所介護の機能・役割を知る。 2. 通所介護の日課を理解する。 3. 利用者及び家族とのコミュニケーションの必要性を知る。 4. 観察の視点を養い、必要とされる援助について学ぶ。 訪問介護 1. 住み慣れた地域での生活継続のためのケアマネジメントのしくみを理解する。 2. 利用者の生活には、その地域の文化・慣習が関与することを学ぶ。 3. 利用者及び家族とのコミュニケーションの必要性を学ぶ。 4. 生活の場において利用者の状況に応じた生活支援技術を学ぶ。 共通：実習に伴う一連のレポート、日誌、記録が書ける。 実習巡回時の面接指導		
評価方法	1. 実習日誌、レポート 2. 施設指導者による評価及び教員による総合評価 3. 出席簿		
テキスト	・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 ・実習のしおり ・関係書類配付		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護実習Ⅱ 実習・トータル300時間・6単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	介護実習Ⅱ：実習Ⅰの体験を踏まえながら、一つの施設・事業所において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置く。 実習Ⅱ－1…介護過程の展開を軸に専門的知識や技術を統合し、総合的な援助ができる能力を養う。 実習Ⅱ－2…介護過程の展開を軸に総合的な援助ができる能力を養い、自己の介護観を見出す。		
授業内容	介護実習Ⅱ－1 1. 利用者の生活支援に必要なアセスメントができる。 2. 基本的な介護技術の実践と応用 3. 介護に必要な記録が書ける。 介護実習Ⅱ－2 1. 介護過程の展開を通じて専門的・計画的に介護サービスを提供できる。 2. 根拠に基づいた個別ケアの実践 3. 介護に必要な記録が書ける。 共通：実習に伴う一連のレポート、日誌、介護過程の展開記録が書ける。 実習巡回時の面接指導		
評価方法	1. 実習日誌、レポート 2. 施設指導者による評価及び教員による総合評価 3. 出席簿		
テキスト	・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 ・実習のしおり ・関係書類配付		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	発達と老化の理解 I 講義・30 時間・2 単位	教員名	上浦 弘美
概 要 及 び 目 的	生まれてから死ぬまでの成長、発達する過程を通して人を理解し老年期における発達課題や高齢者に多い症状、疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体、心理、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ。		
授業内容	1. 人間の成長と発達の基礎的知識 1) 成長・発達の考え方、原則・法則 2) 成長・発達に影響する要因 2. 人間の発達段階と発達課題 1) 発達理論 2) 発達段階と発達課題 3) 身体的機能の成長と発達 4) 心理的機能・社会的機能の発達 3. 老年期の特徴と発達課題 1) 老年期の定義 2) 老化とは 3) 老年期の発達課題 4. 老化にともなうところとからだの変化と生活 1) 老化にともなう身体的な変化と生活への影響 2) 老化にともなう心理的・社会的変化と生活への影響		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	発達と老化の理解Ⅱ 講義・30 時間・2 単位	教員名	上浦 弘美
概 要 及 び 目 的	生まれてから死ぬまでの成長、発達する過程を通して人を理解し老年期における発達課題や高齢者に多い症状、疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体、心理、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ。		
授業内容	1. 高齢者と健康 1) 高齢者の健康 2) 高齢者の症状・疾患の特徴 3) 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 4) 保健医療職との連携		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	認知症の理解 I 講義・30 時間・2 単位	教員名	綱島 公子 田中 いづみ
概 要 及 び 目 的	認知症に関する基礎的知識を習得し、その特性を理解する。 認知症の現状を理解し、その特性と日常生活への影響を考えた支援のあり方を学ぶ。 認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症の人への適切な介護、家族の支援が出来る。		
授業内容	1. 認知症とは何か（脳のしくみ） 2. 認知症の人の心理 3. 認知症のさまざまな症状①中核症状の理解 4. 認知症のさまざまな症状②生活障害の理解 5. 認知症のさまざまな症状③BPSDの理解 6. 認知症の診断 7. 認知症の原因疾患と症状・生活障害① 8. 認知症の原因疾患と症状・生活障害② 9. 認知症治療薬 10. 認知症予防 11. 認知症を取り巻く状況① 12. 認知症を取り巻く状況②（認知症サポーター） 13～14. 認知症ケアの理念と視点 15. 認知症当事者の視点から見えるもの		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	認知症の理解Ⅱ 講義・30 時間・2 単位	教員名	三宅 典子・水内 誠 田中 いづみ・石川 静葉
概 要 及 び 目 的	認知症本人、家族を含めた周囲の環境にも配慮した、介護の視点を学ぶ。 認知症の現状を理解し、その特性と日常生活への影響を考えた支援のあり方を学ぶ。 認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症の人への適切な介護、家族への支援ができる。 病院や高齢者施設等で保健師として実務経験を有する教員が、臨床現場での経験および看護技術を生かして、医療的ケア及び救急蘇生法の理論と技術習得を実践的に指導する科目である。		
授業内容	1. 認知症を取り巻く状況 2～3. 認知症ケアの理念と視点 4. 認知症ケアの実際：パーソンセンタードケア 5. 認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメントツール 6. 認知症の人とのコミュニケーション 7. 認知症の人へのケア 8. 認知症の人へのさまざまなアプローチ 9. 認知症の人の終末期医療と介護 10. 環境づくり 11. 介護者支援（家族支援） 12. 介護者支援（ケアラーへの支援） 13～14. 認知症の人への地域生活支援 15. まとめ		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	障害の理解 I 講義・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ 他
概 要 及 び 目 的	介護福祉士は、介護サービスを提供するにあたり、サービス利用者となる障害のある人についての理解が必要である。「障害の理解」は、医学的・心理的・社会的な面から、利用者が持つ障害について基礎的な知識を修得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し介護に生かしていくための科目である。具体的には ・障害のある人と向き合うために、障害の概念や障害者福祉の基本を学ぶ ・障害のある人の心理、身体機能に関する基本的知識を習得する ・家族を含めた介護の視点、連携ができる 以上の学びを通し、個々の利用者の障害状況に対する適切な介護が展開できるよう学習を深める。		
授業内容	1. 障害の基礎的理解（障害の概念—ICIDHからICFへ） 2. 障害者福祉の基本理念 3. 障害者福祉に関連する制度 4. 障害者福祉制度と介護保険制度 5. 障害のある人の心理 6～8. 肢体不自由（運動機能障害） 9. 視覚障害 10. 聴覚障害 11. 言語障害 12. 重複障害 13. 高次脳機能障害 14. 重症心身障害 15. 知的障害		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	障害の理解 II 講義・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ 他
概 要 及 び 目 的	介護福祉士は、介護サービスを提供するにあたり、サービス利用者となる障害のある人についての理解が必要である。「障害の理解」は、医学的・心理的・社会的な面から、利用者が持つ障害について基礎的な知識を修得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し介護に生かしていくための科目である。具体的には ・障害のある人と向き合うために、障害の概念や障害者福祉の基本を学ぶ ・障害のある人の心理、身体機能に関する基本的知識を習得する ・家族を含めた介護の視点、連携ができる 以上の学びを通し、個々の利用者の障害状況に対する適切な介護が展開できるよう学習を深める。		
授業内容	1. 内部障害者 2. 心臓機能障害 3. 呼吸機能障害 4. 腎臓機能障害 5. 膀胱・直腸機能障害 6. 小腸機能障害 7. ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 8. 肝臓機能障害 9. 精神障害 10. 精神障害者の支援 11. 発達障害 12. 難病 13. 連携と協働①（地域のサポート体制） 14. 連携と協働②（チームアプローチ） 15. 家族への支援（家族の介護力の評価と介護負担軽減）		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	こころのしくみ 講義・30 時間・2 単位	教員名	鈴木 晶子
概 要 及 び 目 的	介護に生かすための人のこころについて学ぶ。 人間の発達とその各過程で生じるさまざまな心理的葛藤や問題について学び、それらの問題について自らの考えを記述することで、主体的に理解することを目指す。 特に老年期における心理や主な精神疾患についての知識、かわりについて理解を深めていく。 各グループで心理学に関して興味をもったテーマを定め、それについてまとめ、発表を行なう。		
授業内容	1. 乳幼児期の発達 2. 発達障害 3. 児童期の発達 4. 不登校・児童虐待 5. 思春期・青年期の発達 6. アダルトチルドレンと共依存 7. 成人期の発達 8. 精神疾患 9. 老年期の発達 10. 障害受容 11～12. グループ学習 13～14. グループ発表 15. テスト		
評価方法	1. 試験 2. グループ発表		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	からだのしくみ 講義・30 時間・2 単位	教員名	時岡 眞美子・田中 いづみ
概 要 及 び 目 的	介護に活かすためのからだのしくみを理解する。 人間のからだの仕組みに関する基本的理解と高齢者の疾病を理解する。 生活支援のために必要とされる基本的な人体の構造や機能、疾病について学び、根拠を持って援助ができる。 病院や高齢者施設等で保健師として実務経験を有する教員が、臨床現場での経験および看護技術を生かして、医療的ケア及び救急蘇生法の理論と技術習得を実践的に指導する科目である。		
授業内容	1. からだのしくみの理解（構造と機能） 2. 生命の維持・恒常のしくみ（体温、脈拍）① 3. 生命の維持・恒常のしくみ（血圧、その他）② 4. 生命の維持・恒常のしくみ（人体部位の名称）③ 5. からだの働き① 6. からだの働き（ボディメカニクス）② 7. からだの働き（関節可動域 他）③ 8. 高齢者の疾病の特徴① 9. 高齢者の疾病の特徴（目、耳）② 10. 高齢者の疾病の特徴（骨、関節）③ 11. 高齢者の疾病の特徴（呼吸器）④ 12. 高齢者の疾病の特徴（泌尿器）⑤ 13. 高齢者の疾病の特徴（悪性新生物）⑥ 14. 高齢者の疾病の特徴（感染症）⑦ 15. 高齢者の疾病の特徴（皮膚、その他）⑧		
評価方法	1. 試験 2. グループワーク点を加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活に関わるからだのしくみA 講義・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ
概 要 及 び 目 的	介護福祉士は人を生活者としてとらえ、その生活障害に対して適切な介護を展開する。この科目では、身じたく・移動・食事・排泄などの生活行為別に、支援する方法を選択するための根拠を学習する科目である。生活者である利用者に、個々の状態にあった介護を提供するための根拠となる知識（生活動作のメカニズム）を学習し、科学的な介護が提供できる学びとする。		
授業内容	1. 健康とは何か 2～4. 移動に関連したところとからだのしくみ（移動のしくみ） 5. 移動に関連したところとからだのしくみ（機能の低下がもたらす影響） 6. 移動に関連したところとからだのしくみ（変化の気づきと対応） 7～8. 身じたくに関連したところとからだのしくみ（身じたくのしくみ） 9. 身じたくに関連したところとからだのしくみ（機能の変化がもたらす影響） 10. 身じたくに関連したところとからだのしくみ（変化の気づきと対応） 11～12. 食事に関連したところとからだのしくみ（食事のしくみ） 13. 食事に関連したところとからだのしくみ（機能の低下がもたらす影響） 14. 食事に関連したところとからだのしくみ（変化の気づきと対応） 15. まとめ		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活に関わるからだのしくみB 講義・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ
概 要 及 び 目 的	介護福祉士は人を生活者としてとらえ、その生活障害に対して適切な介護を展開する。この科目では、身じたく・移動・食事・排泄などの生活行為別に、支援する方法を選択するための根拠を学習する科目である。生活者である利用者に、個々の状態にあった介護を提供するための根拠となる知識（生活動作のメカニズム）を学習し、科学的な介護が提供できる学びとする。		
授業内容	1～2. 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ（入浴・清潔保持のしくみ） 3. 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ（機能低下がもたらす影響） 4. 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ（変化の気づきと対応） 5～6. 排泄に関連したところとからだのしくみ（排泄のしくみ） 7. 排泄に関連したところとからだのしくみ（機能低下がもたらす影響） 8. 排泄に関連したところとからだのしくみ（変化の気づきと対応） 9～10. 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ（休息・睡眠のしくみ） 11. 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ（機能の低下がもたらす影響） 12. 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ（変化の気づきと対応） 13. 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 14. 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ（こころの理解、からだの変化） 15. 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ（連携と協働）		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ		
備 考			

年次・学期	2 年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	医療的ケア 講・演・60 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ 他
概要 及び 目的	看護師として実務経験を有する教員が医療的ケア及び救急蘇生法の理論と技術習得を実践的に指導する科目である。 平成 24 年度 4 月 1 日から「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部が改正され、喀痰吸引、経管栄養という医行為の一部が認定証をもった介護福祉士等の業務となった。これに対応し、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得することを学習のねらいとする。		
授業内容	1. 人間と社会 2. 保健医療制度とチーム医療 3. 安全な療養生活 4～5. 救急蘇生法 6～7. 清潔保持と感染予防（感染予防、消毒法） 8～9. 健康状態の把握（バイタルサイン、急変状態など…） 10～16. 高齢者及び障害児・者の「たん吸引」概論 （呼吸のしくみ、たんの吸引、人口呼吸器、子どもの吸引、呼吸器系の感染と予防、危険と事故） 17～22. 高齢者及び障害児・者の「たん吸引」実施手順解説 （たん吸引の器具・機材、吸引の技術と留意点、たん吸引に伴うケア、報告と記録） 23～28. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 （消化器系のしくみ、経管栄養、注入内容、実施上の留意点、子どもの経管栄養、感染予防、危険と事故） 29～34. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説 （経管栄養の器具・機材、経管栄養に必要なケア、技術と留意点、報告と記録） 35. 筆記試験 36. 救急蘇生法 37～38. 口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内の喀痰吸引 39～40. 経管栄養、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 41. 評価テスト		
評価方法	1.試験（筆記と実技）		
テキスト	中央法規 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 一般社団法人全国訪問看護事業協会＝編集		
備考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	国家試験対策Ⅰ 講義・60 時間・4 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及び 目 的	国家試験は2 年間の集大成である。1 年生の時から学習定着度を再確認するとともに学習修得度にあわせて個別対応を取り入れ、100%合格を目指し学習を深めることを目的とする。		
授業内容	1. 国家試験とは 2・3. 国家試験の傾向と対策 4. 【人間と社会】人間の尊厳と自立 5. 【人間と社会】人間関係とコミュニケーション 6・7. 【人間と社会】社会の理解 8・9. 【介護】介護の基本 10. 【介護】コミュニケーション技術 11・12. 【介護】生活支援技術 13. 【介護】介護過程 14・15. 【こころとからだのしくみ】発達と老化の理解 16・17. 【こころとからだのしくみ】認知症の理解 18・19. 【こころとからだのしくみ】障害の理解 20・21. 【こころとからだのしくみ】こころとからだのしくみ 22. 医療的ケア 23. 総合問題 24～27. 確認模試 28～30. 模試解説とまとめ		
評価方法	1. 確認、課題テスト		
テキスト	資料配布		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	国家試験対策Ⅱ 講義・60 時間・4 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及び 目 的	国家試験は2 年間の集大成である。学習定着度を再確認するとともに学習修得度にあわせて個別対応を取り入れ、100%合格を目指し学習を深めることを目的とする。		
授業内容	1. 国家試験の傾向と対策について 2・3. これまでの学習の確認 4. 【人間と社会】人間の尊厳と自立 5. 【人間と社会】人間関係とコミュニケーション 6・7. 【人間と社会】社会の理解 8・9. 【介護】介護の基本 10. 【介護】コミュニケーション技術 11・12. 【介護】生活支援技術 13. 【介護】介護過程 14・15. 【こころとからだのしくみ】発達と老化の理解 16・17. 【こころとからだのしくみ】認知症の理解 18・19. 【こころとからだのしくみ】障害の理解 20・21. 【こころとからだのしくみ】こころとからだのしくみ 22. 医療的ケア 23. 総合問題 24～27. 確認模試 28～30. 模試解説とまとめ		
評価方法	1. 確認、課題テスト		
テキスト	資料配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	ボランティア活動 講・演・30 時間・1 単位	教員名	齋藤 真智子
概 要 及 目 的	地域における様々なボランティア活動に目を向け、体験することで「共生」の意義を考え、人と関わることの楽しみや人間関係を築くためのコミュニケーションを学ぶ。 我が国の伝統芸能である銭太鼓の基礎を学び、地域での発表につなげる。また、隣接施設の利用者の方との交流を行う。そして、人間関係や共同作業の楽しさを学び、他者を思いやる心を育み、地域社会を形成するひとつの存在として、自分自身が社会的な価値や役割を持っていることを自覚する。		
授業内容	1. オリエンテーション：科目の予定と内容 2. 里孫交流に向けて 3. 身近なボランティア：隣接施設での清掃・草取りなど 4. 里孫交流① 5. 里孫交流② 6. 里孫交流③ 7. オレンジカフェの準備 8. オレンジカフェの参加① 9. 銭太鼓 基本講習会 10. オレンジカフェの参加② 11. 銭太鼓の練習 12～13. 旭川荘夏祭りへの参加 14. オレンジカフェの参加③ 15. まとめとレポート		
評価方法	1. 出席 2. 授業態度 3. レポート		
テキスト	テキストなし ※必要な場合は資料を配布する		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	法学 講義・30 時間・2 単位	教員名	大田 晋
概 要 及 び 目 的	法とは何か、法と社会の関係、法律の基礎知識さらに「日本国憲法」における国民主権、基本的人権、平和主義、国家統治機構などについて学習する。 国民として「社会と法、自己と法」の関係が理解でき、また、社会人として「自由と責任、権利と義務」の正しい認識と判断ができることを目標とする。		
授業内容	イントロ 講義の狙い、講義の受け方・進め方など。 法とは 第1講 「法」とはなにか～イメージ、意味、機能、役割 第2講 「法／法律」の分類と体系／制定過程 第3講 法律と社会（国民生活） 第4講 民法と刑法 憲法 （憲法～その意味、全体像、制定の歴史） 第5講 憲法の意味、全体像 第6講 憲法制定の歴史 （憲法～基本原理と内容） 第7講 憲法的基本原理1＝国民主権 第8講 憲法的基本原理2＝基本的人権（1） 第9講 同上（2） 第10講 同上（3） 第11講 憲法的基本原理3＝平和主義 （憲法～国家組織） 第12講 国家組織：天皇、立法（国会）、司法（裁判所） 第13講 国家組織：行政（内閣）、国家財政、地方自治 // 憲法改正 まとめと総復習 時間がある場合に行う。		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポート提出を加味する		
テキスト	テキストはとくに使わない。 毎回、講義レジュメ（講義のポイント）ペーパーを配布する。 憲法条文集を購入すること。（「日本国憲法」童話社発行）		
備 考	配布レジュメをもとに講義を聞きながら自分自身でノートを作成していくことが学習の基本である。		

年次・学期	2 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	経済学 講義・30 時間・2 単位	教員名	吉田 信
概 要 及 び 目 的	社会福祉主事を目指すものとして必要な経済学に関する知識を学習する。 経済学を学ぶことにより、経済活動が国民にとってまた自分自身の生活にどのように関連しているのかを学び、社会福祉の関連で捉え理解することを狙いとする。		
授業内容	1. 資源配分の仕組み 2. 現代の市場経済とビジネス 3. 需要の概念と需要の変化 4. 供給の概念と供給の変化 5. 価格決定の仕組み 6. 市場の役割と課題 7. GDPと経済循環、物価と実質GDP 8. 経済成長 9. 財政 10. 金融 11. 企業の国際化・グローバル化 12. 企業の社会的責任 13. ビジネスの創造と地域産業の振興 14. 地域ビジネス事情 15. まとめと試験		
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート提出 3. 発表 4. 演習に取り組む姿勢		
テキスト	1 実教出版 ビジネス経済 佐々木宏夫著 2 その都度プリント・資料等を配布		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	児童福祉論 講義・30 時間・2 単位	教員名	太田 修平
概 要 及 び 目 的	児童福祉の歴史の変遷、現代社会における児童福祉の意義について学び、保育との関連性及び児童の人権について考えを深める。さらに、児童福祉に関する制度と実施体系を学び、多様化しているニーズに対してどのような取り組みがなされているかを理解する。それらを踏まえ、児童福祉の現状や課題を把握し、子育て支援、子どもの成長・発達の支援、親子関係の支援を中心に、一人ひとりが人間として大切にされる社会の実現について考えを深める。 病児や障害児等が保健師として実務経験を有する教員が、臨床現場での経験および看護技術を生かして、医療的ケア及び救急蘇生法の理論と技術習得を実践的に指導する科目である。		
授業内容	1. 児童福祉の考え方 2. 児童福祉を取り巻く状況 3. 児童福祉の歴史 4. 児童福祉行政のしくみ 5. 児童福祉の機関と施設 6. 健全育成サービス・母子保健サービス 7. 保育サービス 8. ひとり親過程への福祉サービス 9. 要保護児童への福祉サービス子ども虐待の防止とその対応① 10. 要保護児童への福祉サービス子ども虐待の防止とその対応② 11. 少年非行等への対応 12. 障害児福祉サービス① 13. 障害児福祉サービス② 14. 児童福祉でのソーシャルワーク・児童福祉の担い手 15. まとめ・試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点 ※レポートなどを加味する		
テキスト	必要に応じて資料を配布する ミネルヴァ書房 新プリマーズ 児童家庭福祉（未定）		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	地域福祉論 講義・30 時間・2 単位	教員名	齋藤 真智子
概 要 及び 目 的	地域福祉の基本的考え方について理解する。 地域福祉の主体と対象について理解する。 地域福祉にかかる組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する 地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実際について理解する。 地域福祉の推進方法について理解する。		
授業内容	1. 地域福祉の基本的な考え方 2. 地域福祉の先駆け 3. 地域福祉の担い手ーボランティア活動・福祉教育と専門職養成ー 4. 民生委員のお仕事（民生委員の話を聞こう） 5. 地域福祉の実践に学ぶー住民・市民活動 6. 行政組織と民間組織の役割と実際 7. 小地域福祉活動とまちづくり 8. 災害と地域福祉 9. 中山間地と地域福祉 10. 都市と地域福祉 11. 子ども・家庭と地域福祉 12. 地域包括支援とは何か①（地域包括支援センターで話を聞こう） 13. 〃 ② 14. 新しい地域福祉 15. 終講テスト		
評価方法	1. 試験 2. レポート		
テキスト	参考文献：社会福祉法人・全国社会福祉協議会 「地域福祉論」 ※必要に応じて資料を配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会福祉援助技術演習 演習・30 時間・1 単位	教員名	太田 修平 齋藤 真智子
概 要 及 び 目 的	・個人で取り組む演習（個人発表を含む）、小グループで取り組む演習（グループワーク）、具体的な援助場面を想定した演習（ロールプレイング）などを通して、相談援助における基本的な知識と技術を身につける。 ・他者との交流を通して、価値観の多様性、相談援助に必要な基本的価値・倫理、自己覚知、コミュニケーション、面接技術の基礎を理解し、人の話を聴く・自分の考えを伝える能力を養う。		
授業内容	1. 人の価値観 （価値観の多様性、他者理解、援助と価値観、他者の価値観の尊重、価値観の形成に影響を与えた出来事 など） 2. 相談援助に必要な基本的価値・倫理 （相談援助に必要な基本的価値・倫理の体得を目的とした具体的な援助場面を想定した演習 など） 3. 自己覚知 （自己覚知とは、自己覚知の必要性、社会福祉専門職と自己覚知 など） 4. 対人援助に必要なコミュニケーションの基礎 （コミュニケーションとは、言語的・非言語的コミュニケーション、表情とコミュニケーション、傾聴、繰り返し、言い換え、話を促す技法、感情を表す語句、開かれた質問と閉じられた質問、共感的な応答、ことばの二面性、自己開示 など） 5. 面接技術の基礎 （相談援助における面接とは、相談援助の過程と面接、バイステックの7原則、面接環境の重要性、初回面接における留意点、ニーズの把握、情報収集、相談記録 など）		
評価方法	1. 試験 2. レポート 3. 出席状況・受講態度		
テキスト	必要に応じて資料を配布		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	福祉事務所運営論 講義・30 時間・2 単位	教員名	藤本 昌弘
概 要 及 び 目 的	福祉事務所の組織、業務や運営に当たっての基本的知識を身に着けるとともに、各種社会資源との連携の重要性を学習する。また、福祉事務所の専門職員としての社会福祉主事の役割と責任を自覚し、基本的な援助技術や各種制度について事例研究や演習を通じて理解を深めることを目的とする。		
授業内容	1. 現代社会と福祉事務所の運営 2. 福祉事務所の成立と歴史的展開 3. 福祉事務所の業務と組織 4. 福祉事務所と関係社会資源との連携 5. 福祉事務所の運営と民生委員の役割 6. 福祉事務所の専門職員とその役割 7. 社会福祉主事の専門性 8. 社会福祉主事の業務と倫理 9. 社会福祉援助技術の展開 10. 社会福祉援助技術の実践 11. 福祉事務所の業務に関する法制度① ・生活保護制度 ・生活困窮者自立支援制度 12. 福祉事務所の業務に関する法制度② ・児童、母子福祉 ・高齢者福祉 ・障害者福祉 13. 福祉事務所における自立支援の事例 ①事例研究 ②相談面接演習 14. 福祉事務所をめぐる最近の政策動向等と課題 15. 試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点		
テキスト	ミネルヴァ書房「福祉事務所運営論」		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会福祉施設経営論 講義・60 時間・4 単位	教員名	小幡 篤志 長壽 厚志
概 要 及 び 目 的	福祉サービスの安定的な供給には、提供主体となる事業者の運営の安定性と持続性、そこで働く各職種の職員の能力が最大限発揮されるような条件整備が必要である。そのために、各形態別の組織の根拠的低となる法制度を学ぶとともに、運営管理の基本的な技法や品質管理、リスクマネジメントの手法等を学ぶ。		
授業内容	・オリエンテーション ・福祉サービスにおける組織と経営 ・法人制度の基本 ・社会福祉法人制度① 社会福祉法の規定 ・社会福祉法人制度② 関連通知、要項 ・その他の形態の法人①（特定非営利活動法人、医療法人） ・その他の形態の法人②（社団法人、財団法人、営利法人等） ・組織経営の基礎理論 ・集団力学に関する理論 ・リーダーシップに関する理論 ・サービスの質の評価 ・事故防止とリスクマネジメント ・労務管理 ・人材育成と研修制度 ・会計と財務管理 ・情報の共有と活用 ・情報の管理と保護 ・総合的なふり返し		
評価方法	1. 試験 2. 出席点		
テキスト	中央法規出版「福祉サービスの組織と経営」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会福祉現場実習指導Ⅰ 演習・30 時間・1 単位	教員名	齋藤 真智子・太田 修平 吉本 信介・藤井 明之
概 要 及 び 目 的	・社会福祉現場実習の意義について理解する。 ・実習へむけた準備（心構え、予備知識、動機付け等）を行い、実習の展開を理解する。 ・実習での学びを整理し、発表できる。		
授業内容	1. オリエンテーション 「社会福祉現場実習Ⅰ」意義・目的 ・実習ファイル作成 2. 実習施設の種別・専門職の理解 3. 実習施設の発表と目標立案 ・実習施設への各種書類作成 4. 相談援助職の理解① ・養護老人ホーム 5. 相談援助職の理解② ・障害者支援施設 6. 事前訪問について（電話でアポイント） 7. 実習計画表の作成 8. 事前訪問の確認 9. 事前訪問 10. 日誌について 11. 実習直前オリエンテーション 12～15. 実習の振り返り ・発表 ・お礼状の作成		
評価方法	1. レポート 2. 出席点及び発表内容を加味する		
テキスト	「社会福祉現場実習のしおり」 ※適宜、参考資料を配布する		
備 考	参考文献 「社会福祉士相談援助実習」中央法規出版		

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会福祉現場実習指導Ⅱ 演習・30 時間・1 単位	教員名	齋藤 真智子・太田 修平
概 要 及 び 目 的	・社会福祉現場実習Ⅱの意義について理解する。 ・実習へむけた準備（心構え、予備知識、動機付け等）を行い、実習の展開を理解する。 ・実習施設の概要の理解を深める。 ・実習での学びを整理し、発表できる。		
授業内容	1. オリエンテーション 「社会福祉現場実習Ⅱ」意義・目的 ・実習ファイル作成 2. 実習施設の種別・専門職の理解（振り返り） 3. 実習施設の発表と目標立案（Ⅱ-①） ・実習施設への各種書類作成 4. 実習施設の発表と目標立案（Ⅱ-②） ・実習施設への各種書類作成 5. 実習書類の確認 6. 事前訪問について（電話でアポイント） 7. 実習計画表の作成（Ⅱ－②） 8. 事前訪問の確認 9. 事前訪問（Ⅱ－②） 10. 日誌・記録物について 11. 実習直前オリエンテーション 12～15. 実習Ⅱ－①②の振り返り ・発表 ・お礼状の作成		
評価方法	1. レポート 2. 出席点及び発表内容を加味する		
テキスト	「社会福祉現場実習のしおり」 ※適宜、参考資料を配布する		
備 考	参考文献 「社会福祉士相談援助実習」中央法規出版		

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会福祉現場実習 I 実習・4 5 時間・1 単位	教員名	齋藤 真智子・太田 修平
概 要 及び 目 的	・現場体験を通じて社会福祉主事として仕事をする上で必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 ・講義、演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている社会福祉の受容に関する理解力、判断力を養う。 ・社会福祉の知識や技術を実際に活用し、援助を必要とする高齢者や障害者等に対する「相談援助業務」に必要となる資質・能力・技術を修得する。		
授業内容	〈実習 I〉（6 日間）高齢者・障害者施設 (1)相談援助を担う職種の役割と業務内容を理解する。 (2)施設の種別・機能・役割を理解する。 (3)様々な利用者や家族とのコミュニケーションを通じて、利用者との人間的な関わりを深め、利用者の状況や思いを知る。 (4)施設に所属する様々な職種の役割と業務内容を理解する。		
評価方法	1. 実習指導者及び担当教員による総合評価 2. 実習日誌、レポート		
テキスト	社会福祉現場実習のしおり 配布資料		
備 考	参考文献 「社会福祉士相談援助実習」中央法規出版		

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会福祉現場実習Ⅱ 実習・4 5 時間・1 単位	教員名	齋藤 真智子・太田 修平
概 要 及び 目 的	・現場体験を通じて社会福祉主事として仕事をする上で必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 ・講義、演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている社会福祉の受容に関する理解力、判断力を養う。 ・社会福祉の知識や技術を実際に活用し、援助を必要とする高齢者や障害者等に対する「相談援助業務」に必要となる資質・能力・技術を修得する。 ・職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。 ・関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。		
授業内容	〈実習Ⅱ－①〉（1 日間）福祉事務所 (1)福祉事務所の役割や業務内容を理解する。 (2)福祉ニーズを要する要援助者像を理解し、そのニーズに対する援助方法を学ぶ。 〈実習Ⅱ－②〉（5 日間）高齢者・障害者施設 (1)相談業務を担う職種の役割と業務内容を理解し実践する。 (2)利用者やその家族との関わりから要援助者ニーズを理解し、その援助に必要な知識、援助技術の内容を理解する。 (3)多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを理解する。 (4)地域における施設のあり方を理解する。		
評価方法	1. 実習指導者及び担当教員による総合評価 2. 実習日誌、レポート		
テキスト	社会福祉現場実習のしおり 配布資料		
備 考	参考文献 「社会福祉士相談援助実習」中央法規出版		